

て居たからして、少しは氣を附けよといふ事になつたのであらう、斯様な訓令が出る所以は、無かつたことを證明して居る、それであるから天道といつても、「飛行機の通る所か」位のこととて、分りはせぬ。それは宗教を侮蔑するが爲に道德の根柢が破壊されて行くのであります、それで「深厚」といふことは言へない。まだ「深厚でない事は幾らでも證明が出来るけれども深厚の方を證明することは餘程困難である。それは甚だ奇激な言のやうであるけれども、眞理の示す所己むを得ぬ次第であります。又第二に國民的道德としては最も鮮かに示しになつて、即ち「克く忠に」「億兆心を一にして世々厥の美を濟す」——一心協力、六千萬心を一にして進むといふこと、或は「義勇公に奉じ」「皇運を扶翼する」といふが如き、その他國民の道德としての意味合は明白にお示しになつて居るのであります。それはモウ鮮かな事で、この點に於ては問題の無いこととあります。

又家庭的道德も皆理解して居る事で、「克く孝に」「兄弟に友に」「夫婦相和し」といふことは、親子の間には慈孝を教へ、兄弟の間には友愛を教へ、夫婦の間には相和することを教へられて居るので、家庭の道德も洵に鮮かてあります。唯だ孝ばかりではありません、兄弟も夫婦も皆教へられて居る。即ち日本の國民道德の最も大切な家庭道德として、親子の關係兄弟の關係、夫婦の關係、主従の關係が一々茲に示されて居るので、家庭道德の基本が明かである。

それから社會的道德はどうかといふと、是も頗る明白に現れて居ると思ふ。それは即ち「博愛衆に及ぼし」といふ事であつて、社會を構成する所の原理はこの言に盡きて居るのである、社會構成の原理は、「博愛衆に及ぼす」といふ言葉以上には、如何なる學者、人物が調べても示すことは出来ない。それから「進んで公益を廣め」「世務を開き」「國憲を重じ」「國法に遵ひ」といふが如き事柄は、皆な社會の大事なる點である。即ち一つの社會を作る以上は、是等の事は安寧秩序を維持し、公利、幸福を進める所以であつて、社會構成の原理をも、社會の幸福を實現する方法をも、一切お